県立西脇北高等学校　　令和4年度学校評価

教育目標	教育方針
予測困難な時代の中にあって、変化に対応することで豊かな人生を送るための「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな身体」を身につけさせ、自立して生きられる力を育む。 自己評価について 達成度　80%以上　A　　65%以上　B　　45%以上　C　　30%以上　D　　30%未満　E	地域ボランティア活動や災害ボランティアによって、生徒に自己有用感を持たせるとともに、基礎学力の定着と人間関係スキルの習得とを充実させることで、自信と誇りを身につけさせ、生徒一人一人の将来像の発見と実現に結びつける。

番号	分掌	重点目標（評価項目）	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
1	総務部	円滑な校務運営	① あらゆる場面でTeamsなどICTの活用を進め、職員の情報共有をよりスムーズにする。 ② 1～3部のすべての生徒、全職員の意思疎通を図り、学校行事はコロナ対策を徹底して可能な限り一斉に行う。部ごとに行う場合は内容を統一する。 ③ 昨年度以上にICT機器の活用機会を増やし、集会や行事のわかりやすさや効率化を促進する。	A	①達成　職員打ち合わせや日常の連絡や各種アンケートの効率化など、使用内容は拡大している。さらに活用の幅を広げていきたい。 ②おおむね達成　行事は概ね感染対策を講じて予定通りに実施できた。ただ、1～3部全員参加の行事について、統一した時間帯に実施する場合の3部生徒への連絡や負担軽減ができるように工夫していきたい。 ③達成　サテライト集会の実施もスムーズに行えるようになってきた。今後は全職員が機材を扱えるようにすることが課題である。	・コロナ禍が続く中でも少しずつ生徒が地域の学習会で発表したり、こども園を訪問するなど交流機会が戻りつつあることはよかった。地域等との交流は生徒の自己有用感や達成感につながるので積極的な参加を促してほしい。 ・ホームページは北高に関心のある多くの人たちが最新の情報を得ようとしているものと解釈しています。発信が遅れないように努めてほしい。 ・コロナ禍で学校生活に保護者が関わる時間が少なかったが、募金活動で生徒の姿を見てとても感心した。今後はボランティアや地域イベントに生徒の皆さんが多く参加され、地域を盛り上げるために活躍してくれることを期待します。
2		地域、中学校等への広報活動の推進	① オープン・ハイスクールや学校説明会を通じ、本校の教育活動の特色や地域における役割など、本校の良さを伝える。 ② ホームページの充実を図り、本校生の活動の様子を地域や近隣の中学校に広報する。 ③ 毎月西北NEWSを発行し、高校生ふるさと貢献活動、ボランティア活動を通した本校の取り組みを公開する。	A	①達成 予定通りにオープン・ハイスクール、中学校教員への学校説明会を実施することができた。 ②やや課題あり　ホームページにおいての情報発信が活動時期から遅れてしまったり、紹介できなかったりすることがあった。一年間を通して本校のよさをアピールできるような仕組みを考えていきたい。 ③達成　毎月の発行に加え、文化祭や東日本ボランティア実施の号外も作成できた。中学校には本校の取り組みを紹介することができた。	
3		地域、育友会、同窓会等との連携	① 育友会及び地域の方々との積極的な交流を促すことで連携を図り、文化祭、体育祭、オープンスクール等の諸行事を実施する。 ② 杉原川CRP（クリーンリバープロジェクト）を通じて、育友会・地域の方々と交流を深める。 ③ ホームページを適宜更新し、地域や同窓生に本校の活動状況を公開する。	A	①生徒が地域の人権学習会で発表したり、こども園を訪問するなど、少しずつ交流の機会がコロナ前の状況に戻りつつある。 ②2部と3部の杉原川CRPは、雨天のために中止となった。来年度は予備日を設定したい。また、コロナが収束すれば、育友会や地域の方々との連携を図っていきたい。 ③やや課題あり　ホームページの更新回数をさらに増やし、生徒たちの活動をすぐに発信できるような仕組みづくりを工夫していきたい。	
4	教務部	多部制・単位制の利点を生かした教育課程の編成と運用	①所属する部以外の授業の受講や、多様な単位修得方法（高等学校卒業程度認定試験・技能審査による単位認定、定通連携併修）を展開する。 ②生徒の多様性に対応した特色ある学校設定科目の設定と運用を行う。	A	①達成 　次年度も継続する。 ②達成 　3卒の希望を叶えるために、自由選択授業に学校設定科目を多く取り入れている。4卒の生徒も、希望進路に応じて選択することが可能。	・欠席が多い生徒に対する対応は大変でしょうが、卒業まで見守ってほしい。 ・個別の補習や、わかる授業、ICTを活用された授業を実践されていることがよく分かりました。これからも生徒を理解した授業をお願いします。 ・生徒のやる気、授業レベルについていけない生徒などもいると思うが、根気強く指導していただきたい。
5		質の良い授業の実施	①シラバスの作成と一般公開（ホームページに掲載） ②ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を展開する。 ③オープンスクール（授業公開）を活用して教員の授業力向上を図る。教科の枠を超えて、多様な指導方法を取り入れる機会を作る。	A	①達成 　次年度も継続する。 ②おおむね達成 　すべての生徒にとってわかりやすい授業にするために、授業のユニバーサルデザイン化を学校全体として取り組んだ。 ③おおむね達成 「ICTの効果的な活用」をテーマにオープンスクールを2回実施した。教科の枠を超えて授業見学をする体制になっており、教員同士お互いに刺激しあいながら、授業力の向上に取り組んでいる。	
6		学習指導の効果を高める取組	①習熟度別クラス（国・英）、少人数クラス、複数教員による指導（チーム・ティーチング）等を効果的に活用する。 ②学校設定教科「コーピング」で習得した学習スキルを活用する生徒の割合を40%とする。 ③独自検定「北高検定」の5級以上認定者の割合を50%とする。 ④独自検定「北高検定」にむけた自主学習に取り組む生徒の割合を35%とする。	A	①達成 　次年度も継続する。 ②おおむね達成 　授業冒頭で学習スキルを学び、授業後半でそのスキルを活用する時間を設けた。外部教材を取り入れ、タブレット端末も使いつつ各自のペースで学習を進めた。年度末に生徒アンケートを実施する予定。 ③おおむね達成 　5級以上認定者の割合は、国語70.1%(昨年度75.2%)、社会58.6%(同65.1%)、数学42.1%(同46.4%)、理科68.9%(同64.0%)、英語50.9%(同39.5%)であった。 ④達成 　生徒アンケートで、「検定前にテキストを使って自分で勉強した」と回答した生徒は46.4%（昨年度42.0%）、「検定後、解けなかった問題等を復習した」と回答した生徒は39.3%（同28.2%）であった。来年度も、検定の予習の仕方や間違った問題の復習の仕方を学ぶ授業をおこなって、自主的に学習に取り組む生徒の割合を高めたい。	
7	生徒指導部	基本的な生活習慣の確立と校則を遵守する態度の育成	① 授業態度やマナーを改善させるルール作りと指導の徹底 ② 時間の厳守、あいさつの励行を推進するため、あいさつ運動を年2回実施する。 ③ 生徒のスマートフォン使用時間帯を把握し、生活習慣を自ら見直す姿勢の確立	B	①授業態度の改善はまだまだ必要である。そこには、生徒のやる気の問題もあるが、授業レベルについていけない生徒の態度をどのように改善し工夫していくかが課題である。挨拶に関してはマナー指導も含めできる生徒を増やしていきたい。 ②次年度は、校内でのスマートフォン使用と集中力の因果関係に着目しながら、生徒の生活習慣を見直す仕組みを確立する。 ③スマートフォンの使用時間の改善	・マナーの改善や挨拶など基本的な生活習慣の確立やいじめの問題は学校の指導だけでは難しく、家庭と連携した指導をお願いします。 ・誰しも他人を思いやる心があれば「いじめ」はなくなると思う。ボランティア活動を通じて人のために頑張れる、人に寄り添える心を育ててほしい。 ・生徒に対しては、いろいろな講演会の意義を踏まえ、危ないと思う行動をとらないように指導をしてください。
8		生徒の自己有用感・達成感の育成	① ボランティア活動に参加する生徒を増やし質的拡充を推進する。 ② 日常の全員清掃を実施し、掃除のやり方を掃除監督が指導する。 ③ 学校行事の役割の中に生徒を配置し、生徒が主体的に活動する領域を広げ、学校行事の充実を図る。	A	①ボランティア活動にしっかりと取り組むことが出来た。 ②生徒の達成感も得られた。 ③本校の特色である全員がボランティア部であることを活かし、さらに次年度は自主的な参加を促す取組を考えていきたい。	
9		他人を思いやる心の育成	①いじめの積極的認知に努め、いじめの定義を生徒に十分に理解できるように指導する。また、いじめが確認されたときは、年次だけで指導をするのではなく、学校全体で組織的に取り組む。 ②生徒の些細な変化にも反応できるよう、生徒とのかかわる時間を増やす。 ③校内外巡回を定期的に行い、いつでも多くの生徒に寄り添える状態を作る。	B	①積極的ないじめ認知を行う為に、教職員や保護者、生徒にいじめの具体例を示しながらいじめの定義を理解していただいた。 ②③校内外の巡回を通して、生徒と教職員が触れ合える時間を増やした。その結果、生徒の些細な悩みや行動の変化に気づくことができ、未然に事故の防止に繋げられることが多くなった。今後はSNSに対する影響について理解を深めさせる必要がある。	
10	保健部	保健安全管理・保健教育の充実	① 全校生を対象に健康相談を実施し、継続的な保健管理及び保健指導を行う。 ② 学校医、学校歯科医と協力し、健康診断および事後措置を適切に行う。 ③ キャンパスカウンセラーと協力し、教育相談の充実を図る。 ④ 安全点検を計画的に実施し、安全な学校環境の維持に努める。 ⑤ 生徒対象の保健講話及び教職員対象の研修（アレルギー・救急法・カウンセリングマインド）を計画的に実施する。	B	①新型コロナウイルス感染症に配慮しながら、全校生に対して健康相談が実施できた。来年度も状況が許す限り、全校生への実施と継続的な保健管理や保健指導を行いたい。多くの生徒が何らかの健康課題を抱えており、それにかかる時間などが課題である。 ②健康診断当日の未受診生徒は年次の教員の協力もあり、減少している。 ③カウンセラーを複数人体制にすることで、生徒・保護者・教職員など、様々な側面から実施できた。キャンパスカウンセリングを利用する生徒が多いため、コンサルテーションの時間を確保できず、情報共有を工夫する必要がある。 ④3月に定期安全点検を実施予定。危険箇所については、事務室と連携しながら対応していきたい。 ⑤エピペンの使用方法（4月）、カウンセリングマインド研修会（7月29日）、自殺予防（心のサポート）研修会（7月28日）、先生のためのゲートキーパー講座（7月8日）など計画的に研修会を実施できた。来年度も計画的に実施できるようにしたい。	・不登校傾向の生徒への対応や心のケアをお願いしたい。 ・4月と7月に複数の先生が一人の生徒と面談する期間を設定されていることはとても良い試みだと思う。不登校の生徒が少しでも、緩やかにでも学校に行けるようサポートしてほしい。 ・薬物乱用防止、LGBTなどの講演会は必要だと思う。これからも続けてください。
11		保健安全課題に組織的に対応する	① 生徒の心身の健康課題について、タイムリーに情報を発信し、共通理解のもとで解決を図る。 ② 各生徒が抱える健康課題に応じて、各年次や各部との会議を定期的に行う。	B	①生徒情報交換会を実施し、要配慮生徒一覧を作成し、生徒の健康状態や配慮について共通理解を図っている。また、生徒情報交換会や生徒指導部会で定期的に、生徒の情報共有を行っている。その中で、全体に共有した方が良い情報は、年次だけでなく、全教職員と共有したり、対応策などを協議している。 ②適宜、ケース会議を行い、生徒の健康課題等の情報共有をし、問題の解決を目指している。多くの生徒が何らかの健康課題を抱えている。	

県立西脇北高等学校　　令和4年度学校評価

番号	分掌	重点目標（評価項目）	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
12	進路指導部	インターンシップ・応募前企業見学の活用・充実	① 新型コロナウイルス感染防止の観点からインターンシップを原則1日で実施する。 ② 応募前企業見学については、一人2社まで必ず行かせ、ミスマッチを防止する。 ③ キャリア教育としての、インターシップと応募前企業見学への参加率100％達成を目指す。	A	就職希望者全員に対して、夏季休業中にインターンシップを実施した。応募前企業見学についても、2社だけでなく応募する企業すべてに見学するように指導し、おこなった。	・資格や検定の取得は将来の就職において有用であるし、何よりも努力して取得したという自信、自己有用感や達成感につながると思う。 ・誰しも自分の思い通りの仕事に就職しているとは限らないのが現実。就職して初めてわかることの方が多く、早いうちから自分で何がしたいのか見つけられる指導をお願いしたい。 ・就職内定後の辞退や就職後の離職をなくすために十分に生徒との面談を重ねてミスマッチを防ぐ必要があると思う。
13		上級学校企業見学会ならびに進路ガイダンス・補習等の進路行事や進路ホームルームの充実	① インスパイア・ハイスクール事業を活用し、大学・企業見学会等の行事を実施する中で、生徒のキャリア教育向上を目指す。 ② 進路ホームルーム計画に基づき、進路ノート・キャリアノートの刷新を図ることで、キャリア教育を深化させる。 ③ 各行事の事前指導と事後指導を行うことで、行事への取り組む姿勢の向上を図る。 ④「夏季補習」や「総合的な探究の時間」、「キャリア学習ウィーク」を活用し、進学・就職に分けて、計画的継続的な補習を実施する。	A	6月に進路ガイダンスを行い、7月に大学・企業見学をおこなった。就職希望者には、8月に就職ガイダンスをおこなうことで、就職に対する意識づけをした。また、総合的な探究の時間、キャリア学習ウィークを活用して計画的な進路指導がおこなえた。	
14		ハローワークや企業との連携強化	① キャリア学習講演会にハローワーク職員を招き、講演会を開催する。 ② JOBフェアや企業との懇談会に積極的に参加し、就職内定率100％を達成する。	A	8月の就職ガイダンスでは、ハローワークから紹介していただいた講師の方に、就職についての心構えや面接練習をしていただいた。3月のキャリア学習ウィークでは、ハローワークの職員に来ていただいて、就職にむけての準備や求人票の見方などの講話をしていただく予定である。また、JOBフェアをはじめ職業体験セミナー等に参加した。	
15		企業からの要望でもある資格・検定の取得を充実する	① 各教科に呼びかけ、資格・検定の取得を生徒にも促し、企業の要望に応えるようにする。	B	商業関係の検定をはじめ、資格・検定をできるだけ受験するようにうながした。	
16		就職内定後の辞退ゼロや就職後の離職率の減少を目指す	① 就職内定後の辞退ゼロならびに就職後1年以内の離職率10％以内達成を目指す。	B	残念ながら、今年度は2名の離職を確認している。しかし、離職率3.4%と現時点で10%を下回っている。	
17	特別支援教育部	特別支援教育の充実	① 実態の把握（療育手帳やサポートファイルを持って入学している生徒の実態把握や、中高連携シートや発達障害の疑い等、気になる生徒に対しても担任や教科担当者よりリストアップし、職員全体で共通理解をする。 ② 支援の必要な生徒に対して、年次を中心とした職員、特別支援教育部、キャンパスカウンセラー、特別支援教育コーディネーター等の共通理解を図る。 ③ 生徒本人と保護者と連携を図り個別の教育支援計画を作成する。 ④ 適宜、部会を開き、合理的配慮等の対応を検討する。	A	取組内容通りに実施することができている。今後についても継続していく。	・特別支援教育部があることで、特性のある生徒やその保護者は安心できると思う。中学校での様子を引き継ぎ、個々に応じた指導をお願いします。 ・数多くの職員研修をされていることがよくわかりました。支援を必要とする生徒の対応、卒業後の進路の指導など、引き続きお願いします。
18		支援が必要と思われる生徒に対しての進学・就労支援	① 中学校からの引き継ぎや市町役所福祉課、支援相談員等と連携を取りながら、必要に応じて特別支援学校のセンター的機能を活用して、ケース会議を開き支援についての助言を得る。 ② 専門家を招聘して、専門性向上のための職員研修会を実施する。 ③ 就職希望者で職業評価を希望する生徒には、ハローワークに職業評価を申し込み、その結果について会議を持つ。また、進学・就業時には、移行支援計画を作成する。 ④ 高等学校における通級の指導を希望する生徒には、自己理解と同時に他者理解されるように、自ら困難さがわかり、必要な場面でサポートを求める。サポートの必要性がある場合に、説明する相手を選び、そして、伝えることができるように、将来社会に出てから困難さが少なくなるように社会自立できる力を身につける。また、通級指導を希望する生徒には、個別の指導計画を作成する。	A	①について今年度も密に連携することができた。②について今年度は、職員研修会を4回実施し、支援を必要とする実事例を検討することで、具体的な生徒への対応方法についての研修もあり、職員の専門性向上に繋げることができた。③については、年次や進路指導部と連携しながら、職業評価を希望する生徒について対応した。④については、一昨年度より8名の担当者が配置され、より幅広い授業展開ができるようになっている。しかし、受講生徒が多いため、個々の多様性に対応するには、多くの職員が指導できる支援体制を作る必要であることが課題として考えられる。	
19	人権・図書部	生徒が自分自身を大切にする	地域貢献活動やボランティア活動等の体験を通じて、自己有用感を養う。	B	クリーンキャンペーンやCRPその他のボランティアを通して、地域とのつながりが持てた。その中で、地域の人からの声かけもあり、生徒が人の役に立つ経験を持つことができた。次年度も地域貢献活動を大切にして参加をすすめていきたい。	・生まれたときは差別もなく、可愛いくみんな平等。善悪に対しては勇気をもって正しい判断をお願いしたい。いろいろな差別事象に遭遇することもあると思いますが、その人の立場に立って優しく接する人に育ててください。 ・地域貢献活動やボランティア活動、学校行事を通じて地域の方々と持てたことに対し、もっと高評価であってもよいと感じる。 ・「ボードゲームデー」や「ライブラリーカフェ」など、生徒の参加する図書室でのイベントは今後も継続してほしい。
20		生徒が生命の尊さを実感する	授業や特別活動など、あらゆる学校生活を通じて、自他の尊厳を大切にする姿勢を育む。	B	新型コロナの感染予防3年目を迎え、自他の命を守ることが人権の基本であることを意識する1年であった。それを生徒に伝えてきたが、さらに意識化していきたい。	
21		人権尊重の基礎を形成する	「人権を学ぶ日」やホームルーム活動を通して、あらゆる人権課題に対して、まず「知ること」を第一義として学ぶ。	B	今年は同和問題をテーマに「人権を学ぶ日」を実施した。また、人権HRでは「高齢者と人権」をテーマに基本的な事項を確認した。次年度も新しい人権課題の学習に取り組む。	
22		図書室の読書環境を整備する	①生徒のニーズを反映した書籍を購入する。 ②生徒が本を探しやすいように適切に整理・配架する。 ③図書室の美化に努め、明るい雰囲気作りに努める。	B	図書アンケートの実施により、生徒や職員のすすめを尊重した図書の購入・補充を図った。また、図書室の利用環境をたえず配慮し、美化に努めた。	
23		図書室の活用や読書活動を推進する	①図書だよりを定期的に発行し、生徒が読書に興味を持つような情報を提供する。 ②「ビブリオバトル」を企画し、生徒の図書室利用を活性化する。 ③「ボードゲームデー」を実施するなど、生徒が親しみの持てる空間とする。	B	今年度はほとんどすべての行事を復活させた。「リファレンス大会」「ビブリオバトル」「ボードゲーム」「ライブラリーカフェ」など、生徒の参加を得て、成功した。次年度もさらに図書館の行事を活性化させる。また、「図書だより」など、広報にも力を入れていく。	

県立西脇北高等学校　　令和4年度学校評価

番号	分掌	重点目標（評価項目）	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
24	ボランティア・防災部	地域ボランティアおよび生徒の自主的な活動の円滑な実施	① Google classroomなどを用い、ボランティア活動の周知を行う。その結果として一人でも多くの生徒がボランティアに参加できるようにする。 ② 播州織をつかったワークショップを行うなど、地域に寄り添った活動を行う。	A	①Google classroom等を用いて周知を行うことにより、ボランティアに参加する生徒が昨年度より増加した。次年度は更に裾野を広げたい。 ②播州織を用いた、防災工作教室を西脇市茜が丘複合施設Miraieや嬉野台生涯教育センターで行った。桑村繊維株式会社から生地も提供して頂き、今後も地場産業である、播州織を用いた活動を幅広く行っていきたい。	・西脇北高校といえばボランティア活動が思い浮かびます。今年度は地域イベント等も復活し、明るく元気に活動されている生徒さんの姿を見ていると力をもらえます。また東日本大震災の被災地でのボランティアに参加された生徒さん自身の成長に役立っていますので、特色ある取組を安全に考慮し、是非継続して下さい。 ・播州織の良さを広めていく活動は継続してください。 ・宮城県の大川小学校では多くの児童が亡くなったが釜石東中学校などでは被害が皆無であった。その違いを知り、語り部活動を継続してほしい。また「てんでんこ」のいわれについても語り伝えてほしい。 ・1.17を風化させない活動は、震災を経験していない生徒たちがいつ、いかなる場合に遭遇しても自分の命や近くにいる人の命を守る行動に結び付けてほしい。防災訓練も単なる訓練に終わらせないよう指導してほしい。 ・1.17の追悼行事では、語り部の方々の高齢化が進んでいるので震災を体験された方の話が聞けたのはよかった。
25		災害支援ボランティア活動への積極的参加および防災意識の向上	① 災害支援のボランティア活動や募金活動を積極的に行う。 ② 防災ジュニアリーダー学習会に参加し、防災に対する意識を高める。	A	①6月に東日本大震災に関する募金を行い、7月には第11回東日本大震災現地ボランティア活動を行った。また、3月頃には西脇市内の学校に呼びかけ募金活動を行う予定である。次年度も出来る範囲で、活動を継続させたい。 ②播磨東地区の拠点校として防災ジュニアリーダー学習会を行った。西脇市内で防災に関するフィールドワークを行うなど、参加生徒の防災意識は高まったと感じる。次年度も防災ジュニアリーダー学習会に参加し、高校生として地域防災に貢献できる事を考えたい。	
26		1.17を風化させない活動の実施	災害ボランティア活動や阪神・淡路大震災などの防災学習で得た知識を地域住民や、小中学生に語り部として伝える。	A	今年度も1月17日に阪神・淡路大震災追悼行事を実施し、当時の状況を知る自衛隊の方を講師として招き、講演を頂いた。また、北はりま特別支援学校・西脇東中学校・日野小学校で語り部活動を行い、地域に自分たちが学んだ防災に関する知識や体験を還元することができた。次年度も引き続き活動を行い、「日頃の備えの大切さ」など、自分達が学んだことを語り継いでいきたい。	
27	心のサポート委員会	生徒と地域の交流機会を創造する	① 6月花いっぱい運動での花の育成を行う。 ② 災害支援や地域支援のボランティア活動を実施する。	A	①② 積極的に取り組むことが出来た。	・不登校傾向の生徒が多いように感じる。多感な年代であり、人により理由も異なるので簡単に解決できる問題ではないが、保護者や外部機関と連携て、少しでも改善できるように対応してほしい。 ・生徒と先生方との距離、地域との距離、外部機関との距離感が高評価であることから、充実した指導や研修がなされていることがわかる。次年度以降も継続して実施されることを望みます。
28		生徒と教員の交流機会を創造する	① 学校行事などを通して生徒と教員の交流をつくり絆を深める。 ② 各部の連携と北高ホットスペースなどで声かけ運動を実施し、問題行動や生徒の孤立化を防ぐ。	A	①② 生徒と教員の距離感が上手く取れている。さらに生徒理解を深め保護者とも連携しながら、生徒把握を深めていきたい。	
29		外部機関との間に交流機会を創造する	①「自殺予防に生かせる教育プログラム」「いじめ防止プログラム」活用する。 ②各学年、各部と情報共有と共通理解を図り、必要に応じては外部機関と連携を取る。 ③ 職員研修会において講演会を実施する。	A	① 活用して授業を実施した。 ② 生徒情報交換会で各年次との連携を密にする。命に係わる問題が起った時には、外部連携し、ケース会議を行った。保護者とも連携を取り、時間をかけながらしっかりと生徒対応することができている。 ③ 職員研修会を2回実施した。	
30	教育情報ネットワーク・システム管理担当	ICTを利用した授業づくりの推進	①特別教室でタブレットとクラウドを使った授業展開できるように、環境を整える。 ②全教科がタブレットを用いて授業展開できるように、研修を充実させる。	A	①おおむね達成 環境整備は進んでいるが、突発的なトラブルに対応できる教員が少なかった。 ②おおむね達成 教員に対して教育用クラウドの概要など伝えることはできたが、具体的な使い方まではなかなか研修できなかった。 次年度は、情報科以外の先生も環境整備やトラブルに対応できるように学校全体で環境の整備を実施していく。また、研修も定期的に行っていく。	・ICTを活用した環境整備がおおむね達成とのことでよかったと思います。個人的には表情がわかる会議はコミュニケーションがとれ、大事だと思いますが、オンラインは遠方の方とつながれるので利点が多く、なくてはならないツールの一つであると考えます。次年度も継続して実施されることを望みます。
31		オンラインシステムを活用した円滑な学校運営	①学校から離れた場所でも職員間で情報共有できる環境を整える。 ②生徒と学校が双方に情報交換できる環境を整える。	A	①達成　TEAMSやOBS配信の利用 ②達成　Classroomや学校HPの利用 次年度も継続してく。	
32	事務室	環境負荷軽減の推進	① 光熱水費の適切な使用 ② 紙の使用量の削減 ③ 環境配慮型製品の購入及び物品の長期使用	B	①こまめに空調の電源を入り切りしたり使用場所を細かく限定することにより、最大需要電力（デマンド値）を抑制することができた。 ②裏紙を再利用するなど、使用量の削減に努めた。 ③環境配慮型製品を選んで購入し、環境負荷軽減に努めた。 引き続き環境負荷の軽減に取り組む。	・いつも丁寧に、気持ちの良い接遇をしていただき、感謝しております。
33		施設・設備の点検及び校内環境の整備・美化の推進	① 施設・設備の定期的な安全点検及び整備 ② 樹木の剪定等の美化の推進	A	①定期的に安全点検を実施するとともに、予算執行が可能な範囲内で整備を行った。 ②計画的に樹木の剪定を行うなど、校内美化に努めた。 引き続き校内環境の充実を図る。	
34		接遇の推進	① 来校者への挨拶及び丁寧な窓口応対 ② 自動電話導入に伴う適切な電話応対	A	①②明るく、良い接遇が実践できた。 引き続き接遇の向上に努める。	